

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 人間福祉学部 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.2 教育課程・教育内容 |
| 小項目 | 6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 要素 | 必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院) |
| 小項目 | 6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 |
| 要素 | 学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院) |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--|-----------------------------------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学部ミッションステートメントの教育目的・方針とカリキュラム構成(科目群)の関連性、および、学部カリキュラム編成における体系的性と授業科目を再検討する。 | → 報告書の作成。 | - | B | A | A | / |
| 2. 高い実践能力の涵養という教育目的と各授業科目の適合性や妥当性を評価する。 | → 学生・実習先・インターンシップ先による評価、評価報告書の作成。 | - | C | B | B | / |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|---|
| 目標1 | 学部ミッションステートメントの教育目的・方針とカリキュラム構成(科目群)の関連性、および、学部カリキュラム編成における体系的性と授業科目を再検討するという目標については、カリキュラム改正などを通してほぼ達成しており、報告書(議事録)を残している。 |
| 目標2 | 高い実践能力の涵養という教育目的と各授業科目の適合性や妥当性を評価する目標については、実習先およびインターンシップ先による評価報告書や学生による「授業に関する調査」を通して概ね達成している。 |
| 備考 | |